



最近、思うこと

教頭 高野 能弘

新田次郎の『剣岳(点の記)』を読み、映画化された作品も見ることができました。剣岳(つるぎだけ)は北アルプス北部の立山連峰にある標高2,999 m の山で、日本では数少ない、現存する氷河を有する山です。弘法大師が草鞋三千足を費やしても登頂できなかった、という伝説があり、明確な記録に残る初登頂は、明治時代末、陸軍参謀本部陸地測量部の測量官、柴崎芳太郎の測量隊によるものであるといわれています。その柴崎芳太郎が、地図作成と初登頂を目指した小説がこの作品です。点の記(てんのかき)とは、三角点・水準点などの基準点の設置・測量の記録のことです。

主人公の柴崎は、命を受け、地図の作成のための測量と剣岳の初登頂(実は・・・)を目指し、その任務を完遂します。その中で、測量官の先輩の古田盛作が発したのが、「何をしたかではなく、何のためにそれをしたかが大事です。」という映画での言葉です。ここ数年、私の心に残っている言葉です。

※※※ 「私は他人にどう見えるかということよりも、むしろ私自身の中で、どんな人間であるかを気にする。

借りものによってではなく、私によって富みたいと思う。(ミシェル・エケム・ド・モンテーニュ)」 ※※※

各学部より

中学部

高等部

3年生は9月18日から三日間、晴天のもと大阪に修学旅行に行ってきました。在来線と新幹線を乗り継ぎ、西の大都会へ。一日目は、海遊館というおしゃれな水族館で、マンボウを見たりエイにタッチしたり。二日目のUSJは、人ごみの中思い思いのアトラクションを楽しみました。列に並んでいるときから乗り物を横目に興奮している生徒や、スリルに思わず悲鳴を上げる生徒など、存分に堪能していました。



五月連休明けから夏休みにかけて行われた前期現場実習を終えて、高等部2,3年生では学年ごとに「現場実習報告会」を行っています。現場実習で働く生徒のスライドを交えながら、仕事の内容、「ほめられたこと」や「これからの課題・目標、アドバイスされたこと」などを自分のことばで一人ひとりが発表しました。他の生徒からも「実習で大変だったことは何ですか。」「楽しかったことは何ですか。」「お昼は何を食べましたか。」等の質問もあり、実習の様子をみんなで共有しながら、これからの学校や家での過ごし方を考える貴重な時間を過ごしました。施設にしても企業にしても学校とは違った環境の中で仕事をすることで、どの生徒も今まで気づかなかった自分のいいところや課題が見つけれられたようです。

9月27日から高等部3年1組に小湊仁美先生が入ることとなりました。クラスだけでなく、作業学習等でも一緒に活動する場面があるとも思いますが、よろしくをお願いします。

《小中学部の保護者の方へお知らせ》

埼玉県教育委員会に報告するため、令和2年度4月初めに

- ① 転居等によって、本校以外の知的特別支援学校に転学
- ② 知的特別支援学校以外の特別支援学校に転学
- ③ 市町村立小中学校に転学

いずれかの希望、予定がある小中学部の保護者の方は10月18日(金)までに必ず担任にお知らせください。

担当：就学相談委員会・田口